

こうして「防長風土注進案」は作られ

同時に藩内の地図も作らせ
その土地にあった産業を奨励しました



長州が特色とする産業は、第七代藩主重就公の時代に長州名産として打ち出された米、塩、紙、蠟だ



我が藩はこれら四白の生産により一層力を入れるべきである！



木の皮から紙を作る

四白の中でも米は防長米といつても最も重んじられ毛羽の御紋の一が米を表し

米

塩

紙

蠟

他の三つは星が塩・紙・蠟を表すといわれ

これらは「おぼえやす」のように紙・蠟・米・塩(四郎兵衛)と語呂合わせしていました

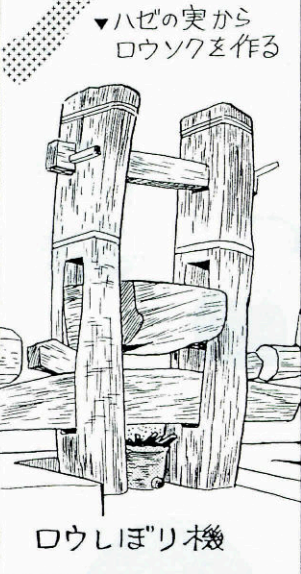


四郎兵衛を「かり」育てなければならぬ！



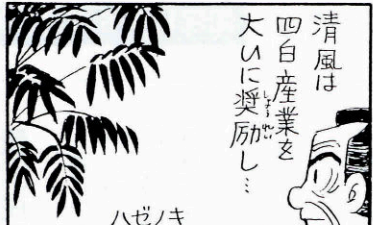
四白の奨励に腰を入れてやらねばならぬ！

と、いうことなのです



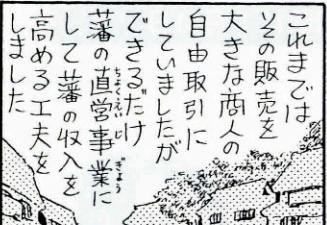
▼ハゼの実からロウソクを作る

ロウしぼり機



清風は四白産業を大いに奨励し

ハゼノキ



これまではその販売を大きな商人の自由取引に任せてきたが、藩の直営事業にすることで高める工夫をしました

清風はその他にも造林・鉱業水産業を促進し補助金なども与えて副業を奨励しました



ただ、つくるだけではダメだ。需要の開拓と消費の拡大をせねば



農産、林産、水産、その他これに加えて付加価値を上げれば増産、増収が望める

そうすれば生産者にとっても大きな力となるはずじゃ

こうして加工処理されて評判をとったものには

乾柿

乾大根

乾魚

乾鮎

乾イカ

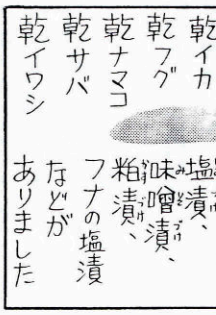
乾フグ

乾ナマコ

乾サバ

乾イワシ

魚介類・鯨肉の塩漬、味噌漬、粕漬、フナの塩漬などが



また長州の織物、舟木櫛、赤間硯、蒲鉾、砂糖、石材などの産物も一段と盛んになりました

現在盛んに行われている一村一品づくりを村田清風はすでに、この時代に奨励していたのです



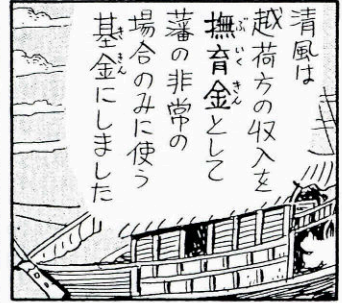
下関は回船(奥州や北陸から日本海を通る大坂や江戸に産物を運ぶ北前船)の中継基地だ



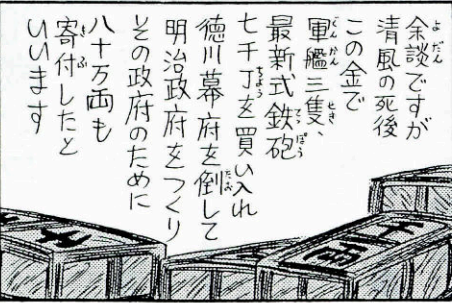
下関に役所をつくり荷物を陸揚げさせ倉庫料を取ったらどうだろう



この役所を「越荷」呼ぼう！



清風は越荷の収入を撫育金として藩の非常の場合のみに使う基金にしました



余談ですが清風の死後この金で軍艦三隻、最新式鉄砲七千丁を買入れ徳川幕府を倒して明治政府をつくりその政府のために八十万両も寄付したといひます

参考資料 / 村田清風入門(平川喜敬著)

以下次号